

10月28日（月）、1年1組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「しらせたいな、見せたいな」です。知らせたいことをどのように文にするか考えて、一文ずつ書くことが目標です。生活科の「あきみつけ」の活動で、公園で見付けたどんぐりやまつぼっくりなどの秋の実や植物の特徴を文章に表します。

初めに、教師が見付けたどんぐりについて紹介する文を示しました。「どんぐりはかわいいです」という文を見て、児童は「だめ」「少ない」「理由を言っていない」と発言し、どこがよいのか、どんな形なのかを書いていることを指摘しました。そこで、教師が、『くわしく』って何だろう。何が知りたいかな」と投げ掛けると、児童は「色」「形」「触った感じ」と次々と発言しました。これを受けて、教師が、モデル文を示しました。すると、児童は、「丸!」「よくなった」と、モデル文の詳しくを確認することができました。



【モデル文を確認する様子】

次に、自分が見付けた秋の実や植物について、みんなに知らせたいことを選びました。児童は事前に、見付けた秋の実や植物の特徴をプリントに書き出していました。児童はそこから、みんなに知らせたいことを三つ選び、印を付けました。その際、まとめられるものは、同じ色の色鉛筆で囲いました。その後、印を付けたことについて、友達に話す活動をしました。例えば、「色は、茶色と黄色です」といった具合です。また、「〇〇みたい」と例えて言う方法も確認しました。



【印を付ける児童】

その後、友達に伝えたことを色短冊に書きました。プリントを見ながら、友達に話したことをそのまま短冊に書けばよいので、児童は黙々と書くことができました。そして、書いた短冊の一つをグループで見合いました。一人が発表をすると、自然と拍手したり、「いいね」と言ったりして、楽しく確認することができました。



【短冊を見合う児童】

最後に、数人の児童に、書いたことを発表させました。グループで確認をしているので、自信をもって発表することができました。聞いている児童も、発表する児童の方を向いて、しっかり聞くことができました。

低学年は、文章を書く経験が少なく、書き方もまだ身に付いていません。そのため、「話す」ことから始め、話したことをそのまま文に表すことで、「書く」ことができるようにしていきます。この後は、「つなぐ言葉（接続詞など）」を使って複数の短冊を組み合わせることで、一つの紹介文を書き上げました。紹介文は、大野木フェスティバルで、多くの人に読んでいただくことができました。